

文字摺通信

第 112 号
2026年 5月15日
発行:文字摺歴史文化社

黒巖山満願寺 その1

ドナルド・キーン氏御推奨の名所

ドナルド・キーン（1922-2019）はアメリカ出身の日本文化研究の第一人者で、著書に『百代の過客』・『日本人の美意識』・『日本文学の歴史』などがあります。キーン氏は昭和53年県立福島高校を訪れました。その目的を彼は次のように書いています。「この学校は、わたしには特に関心の深い場所だった。コロンビア大学の恩師、角田柳作先生が、この高校の前身である旧制福島中学で、数年間教鞭を執っておられたことがあるからだ。」

角田柳作先生が関係する『角田事件』については、また稿を別にします。キーン氏は、福島高校を訪れる前日に福島に来て、岩瀬書店の岩瀬太一さんと一緒に市内を巡りました。その感想を次のように書いています。（『日本細見』より）

「福島市は山に囲まれているのだが、市内にも信夫山と呼ばれる美しい緑の山がある。この信夫山こそ福島個性であり、福島の人々が遠く離れて故郷を思い起こすとき、まず第一に頭に浮かぶものに違いない。面白みのない建物が立ち並び町並みのあいだからところどころ見えて来る阿武隈川も、この町に特徴をあたえている。それ以外に人を惹き付けるものを見なければ、町の中心を離れて郊外へと足を運ぶ必要がある。・・・（中略）・・・

しかし、わたしが福島で一番気に入ったのは、黒岩虚空蔵の景色だった。虚空蔵は、どれも特に景色のきれいな場所に建てられるという話を聞いて、京都嵐山の虚空蔵に思いあたった。黒岩虚空蔵は、阿武隈川を見下ろす崖の上にあり、その眺望たるや最高だ。寺院の裏へ回ると山の斜面に十六羅漢の石像がある。いずれもその自然の環境の中で、まったく実物かと思まごうばかりに配置されている。まるで石像にとって、そこで黙想することほどふさわしい行為はないかのようだ。たとえ石と化することを望まないにしても、ここは瞑想の場としてすばらしいところとなるだろう。」

ドナルド・キーン氏御推奨の名所・黒岩の虚空蔵様とはどんなところでしょうか。

「黒岩虚空蔵および満願寺」は福島市の史跡および名勝に指定されています。板倉氏の福島藩では、特に大事にする社寺として一社四寺制があり、一社は福島稲荷神社、四寺は、常光寺（曹洞宗）・真浄院（真言宗）・薬王寺（天台宗）とともに満願寺（臨済宗）が入っています。



【虚空蔵堂前の牛像・虎像】